

平成 29 年度活動報告(案) -平成 30 年 04 月 20 日(金)-

庶務担当 齊藤雅一

1. 総会関係

平成 29 年度総会を平成 29 年 04 月 21 日(金)、ハロー貸会議室秋葉原駅前ルーム B にて 17:30～18:30 の時間帯で開催した。来賓として日臨技会長の宮島喜文様、私立医大技師長会会長の上道文昭様にご挨拶をお願いした。議長は埼玉医科大学国際医療センターの田地功忠技師長をお願いした。参加人数は 22 名であった。

2. 研修会関係

(1)学術講演会を平成 29 年 04 月 21 日(金) 総会終了後に 18:30～19:30 の時間帯で開催した。「深在性真菌症～ β -D グルカンについて～」と題して日水製薬株式会社の橋本浩子氏に講演をお願いした。 β -D グルカン測定における注意点等についての説明で、興味深い内容であった。参加人数は 20 名であった。

(2)第 35 回学術研修会を平成 29 年 11 月 11 日(土)、株式会社堀場製作所 2 階会議室にて 10:00～16:30 の時間帯で開催した。メインテーマは『「私立医科大学病院」発！ - 検査データを総合的に診る(R-CPC)-』で、午前は各大学病院の検査技師、学生による 6 題の一般演題発表を実施した。

ランチセミナーは「急性腎障害の新規マーカー尿中 NGAL について」と題してアボットジャパン株式会社に、「免疫検査の標準化 相関性の視点から」と題してシーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社に、「投与薬剤が臨床検査値に与える影響について」と題して積水メディカル株式会社をお願いした。検体検査における最新の情報を提供していただき興味深い内容ばかりであった。

午後のシンポジウムは 13:10～15:10 の時間帯で「検査データを総合的に診る(R-CPC)」と題して 4 名のシンポジストに①血算の診かた-貧血を鑑別してみよう-、②輸血療法における特異症例への対応、③一般検査から診る R-CPC、④1 枚の心電図から何を推測するか、をお願いした。幅広い分野での R-CPC で、検査の注意点についても述べられ、参考になるものばかりであった。

次に、15:30～16:30 の時間帯でシスメックス株式会社の高畑隆之主任研究員に「人工知能(AI)と検査について」と題して特別講演をお願いした。医療における AI の最新情報を提供していただき、有意義な講演であった。参加人数は 85 名であった。

(3)若手技師を対象とした臨床化学基礎講座を 5 回開催した。(6 月、7 月、9 月、12 月、2 月)

3. 会誌『KAMERADEN』の発行

『KAMERADEN』は 65 号(第 35 回学術研修会抄録集との合併号)を平成 29 年 10 月に、66 号を平成 30 年 03 月に発行した。

4. 会議関係

会議は理事会を 9 回、編集委員会を 2 回開催した。なお、詳細は『KAMERADEN』掲載の議事録を参照して頂きたい。

5. その他

経費節約として『KAMERADEN』65 号と第 35 回学術研修会抄録集を合併号とした。また、技師会の向上を図るため、活動内容をホームページに表示した。なお、今年度は、よ

り使用し易く、内容の充実したホームページの改変に着手している。更に、学術研修会の一般演題発表において優秀演題賞を設けるとともに、ランチョンセミナーを実施し、多くの検査技師が参加出来るよう工夫した。